

# レビティー・ディスクの真実

2021.12.11堀井

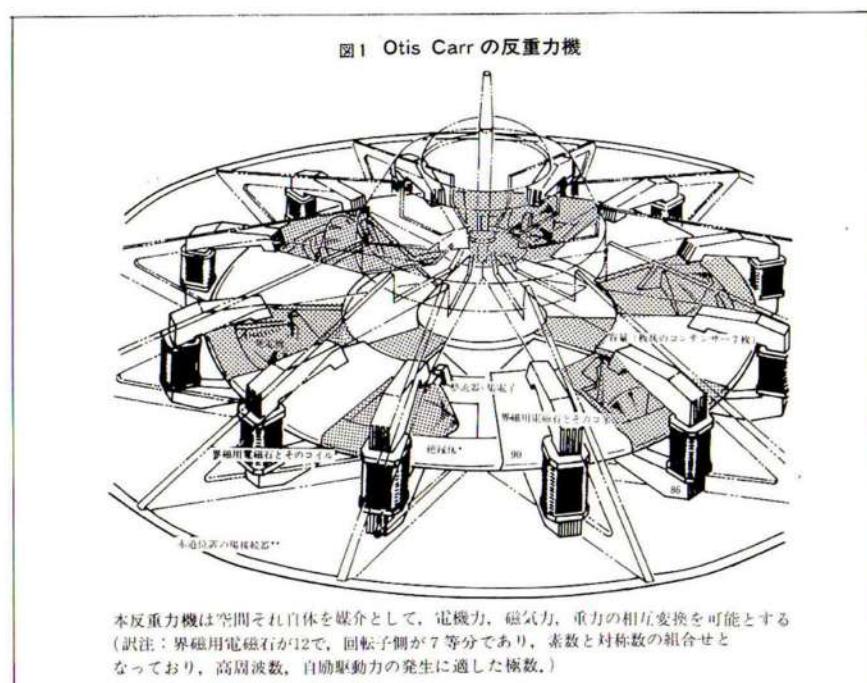
## レビティーディスクの謎、

私が中学生の時（1972年頃）、化石燃料であるロケットエンジンに代わる新推進機関を探して書店を巡っていて清家新一博士の「宇宙の四次元世界」を見つけました。清家博士の逆重力機関に感動し理解も出来ないのにのめり込んで行きました。その本の中で、ジョン・サールのレビティー・ディスクの事が紹介されていて、その構造とピンクのハローに包まれて飛んで行ったと言う逸話に衝撃を受けたものです。



写真は当時集めた資料より作り上げた形状模型！  
(小学館「ワンダーライフ」に掲載)

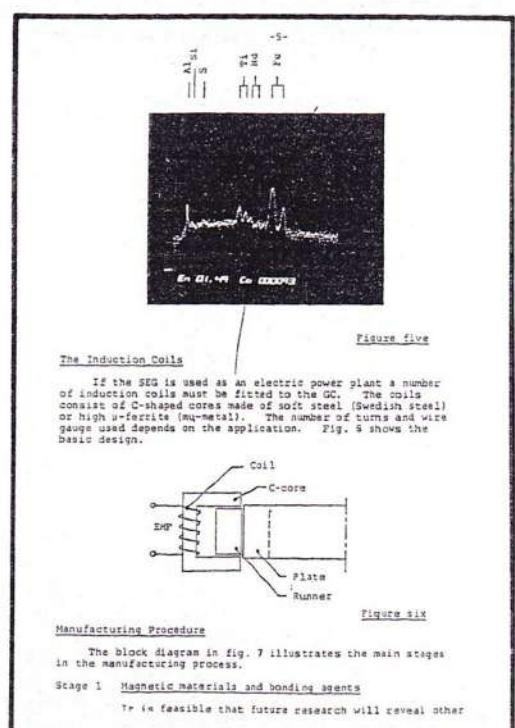
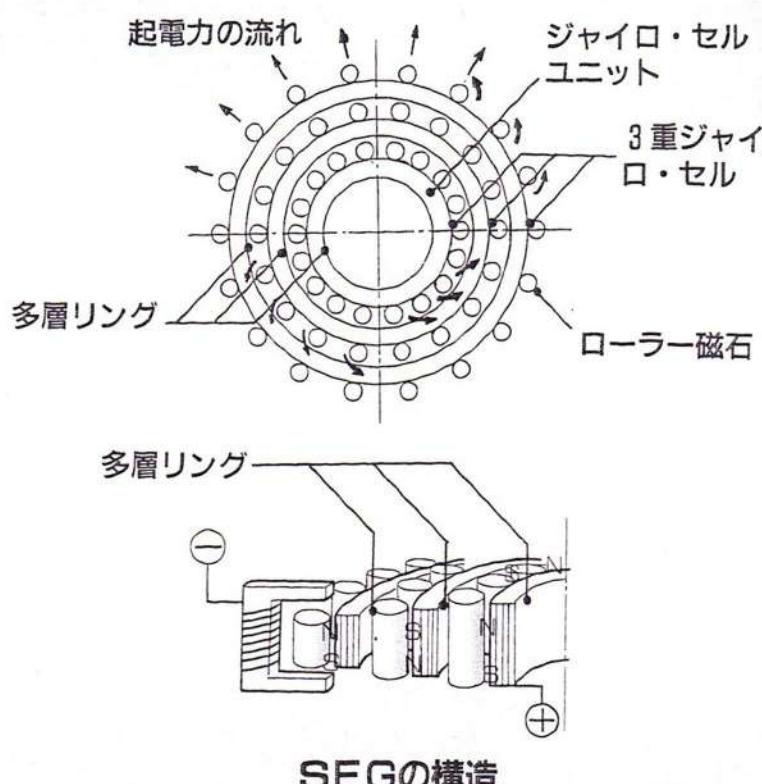
技術出版リーエネルギー技術の動向」にサールと一緒に載ってるOtis T. Carrの円盤構造が似ていました。



ところが1992年、横屋氏が「フリーエネルギーの挑戦」という本の中で、衝撃の「SEG」を紹介！この記事により、20年間信じてきたスリットローター構造からロールベアリングのジャイロセル（SEG）構造にいきなり変わってしまったのです。しかしSEGは材質が特殊であったりカバラの数秘配列を使うなど謎が多く簡単に手が出せるしろものではありませんでした。（サールにあったことがある井出氏によると講演でも数秘配列の話ばかりしてたとか？）。ただボールベアリングモーターというものが存在します。（当時、世一さんから借りて実験しました）モータ=発電機ですから構造的な可能性は否定できません。

横屋氏はサール氏と長年文通をしていて情報は確かです。それでもう一度、清家さんの「宇宙の四次元世界」を読み返してみると「回転摺動リング」の実験とあり（摺動回転リングとはロールベアリングではないか？）その文章だけでイラストなど無かつたですから最初からSEGであった可能性があります。

本当にサール氏のスリットローター構造のレビティーディスクはあったのでしょうか？いきなりSEGに変わり疑問ばかりが残っていました。



SEGに関するレポート



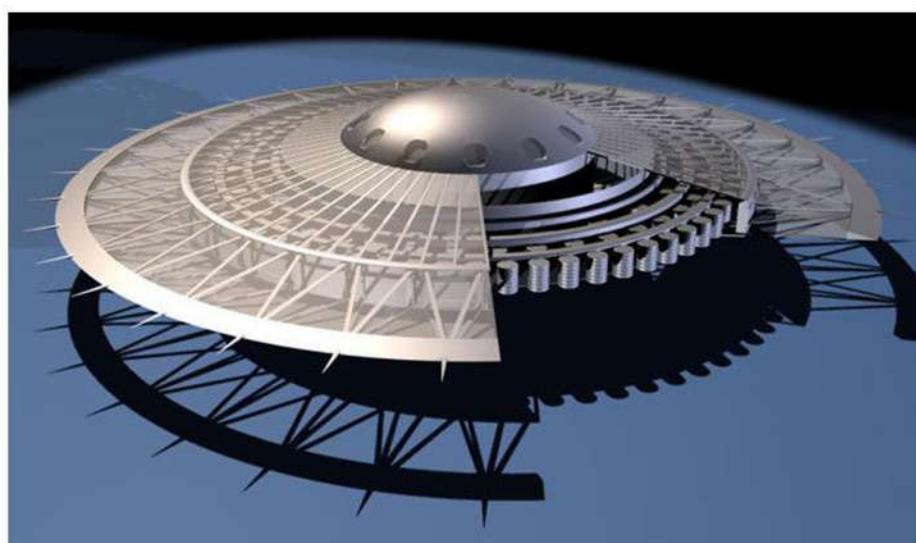
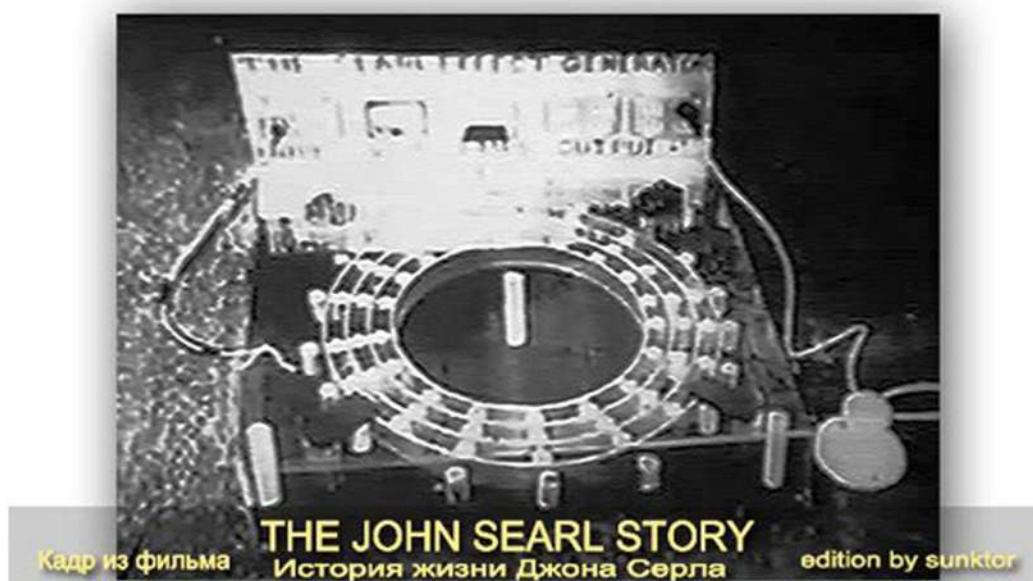
ボールベアリングモータ

それで、横屋氏に当時を思い出してもらい確認してみました。

### 横屋氏談（2021/1/8）

結論から言うと判りません。清家新一さんの紹介で大陸書房「宇宙の四次元科学」及び重力研究所では「レビティー（浮揚）ディスク」でしたね。ところが…ドイツの科学系雑誌「ラウムアンドツァイト（空間と時間）」に掲載された時は磁石を使ったSEGのイラストでしたね。ただ、元々サールが書いた文献で発電機が浮き上がったという記述があるので本来はSEGだったのかも知れません。技術出版「フリーエネルギー技術開発の動向」のイラストはウイムズハースト形静電起電機なので発電機と言えば言えないことも無いですが…。少なくともサール氏は一貫してSEGと言っています。サール氏と会った友人の篠木さんが買って来た。サール氏のビデオも遊星回転？磁石のような実験をくり返すのみです。

との事でした。横屋さんありがとうございました。



## 衝撃の発見！

2018年にYouTubeに上げられたロシア人のアレクセイ・チェクルコフ氏の反重力装置。  
(2019年「ムー」10月号で三浦一則氏がレポートしています。)

私は「ムー」の記事が出る数ヶ月前に、同じ大橋理論（「プロジェクトセザール」）研究家の友人から、このロシアの装置の真偽をどう思うか聞かれてました。動画は釣ってる様に見えインチキ臭いんだけど構造が大橋理論に合ってるのではないかと言う事で調べ始めてました。（彼の情報元も「ムー」と同じ三浦氏でした。）そして、なんとここで新事実が判明したのです。

ロシア人のアレクセイ氏のYouTubeを見ていたら思いもかけず、レビティーディスクの事が述べられていたのです。それによるとイギリスにはジョン・サールと同時期にジョン・チャールズという「円盤の父」と呼ばれてた人がいたというのです。そのチャールズが作ったのがレビティーディスクじゃないかと思われるのです。ジョン・チャールズとジョン・サール名前が似てます。そして、チャールズは先に亡くなっていますので混同したのではないかということなのです。

ジョン・チャールズはイギリスでは「円盤の父」と呼ばれてたくらいの人なのに日本には全く情報が来てません。情報が消された可能性があります・・・！

「フリーエネルギー技術の動向」のOtis T. Carrの円盤もジョン・チャールズの影響ならレビティーディスクに似た構造なのは納得できます。

そうなんです。制作者が違っていたのです。

レビティーディスクはジョン・チャールズだったのです。レビティーディスクとSEGあまりに違う構造で長年疑問に思っていましたが、やっと謎が解けたように思います。



アレクセイ氏のYouTube  
しっかりジョン・チャールズと言っています。

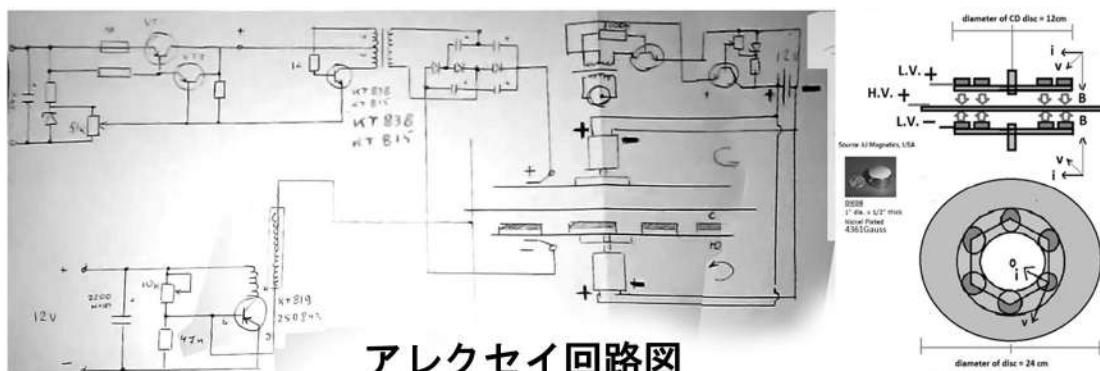


この事から、ロシアのアレクセイ氏の装置の構造と理論は、長年、研究して来たレビティーディスク構造（清家理論）があてはまるのではないかと考えています。

アレクセイ氏はYouTubeの中で飛行原理については、BB効果、トーラス電磁場による重力低減、超音波による空中浮揚（ケイミズモリ説）など複数の原理を使ってると解説しています。しかるに、それはマクロ的な現象と方法で、その根本の原理は清家さんの言ってる量子力学の「スピン反転」がキーではないかと思っています。

「スピン反転」については「ムー」2017年8月号の「負の質量」が反重力の謎を解く！！でレポートされています。米ワシントン大学の研究者が「負の質量」を持つ液状物質の生成に成功したのです。これは金属ルビジウム原子にレーザー光線を照射して冷却、そしてスピンを反転させたのです。するとそれは「負の質量」の様にふるまい始めたのです。質量が逆の性質を持つなら「逆重力」も可能？という清家理論と合致するのです。

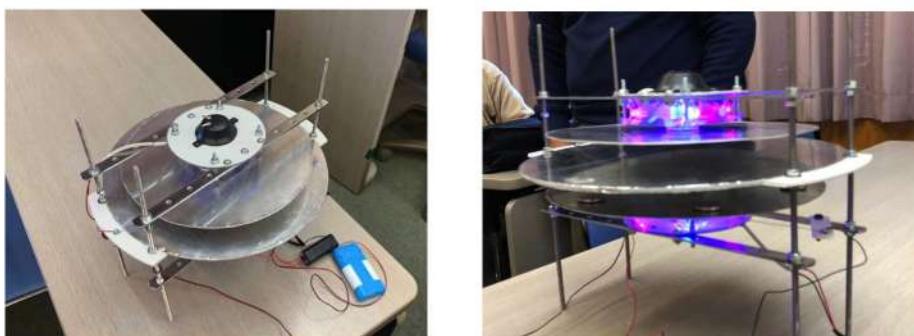
今私は、清家理論に回帰して最新の量子力学と照らし合わせて理解しようと試みています。そして、ロシアのアレクセイ氏の装置を製作中です。



アレクセイ回路図



アレクセイ飛行モデル



製作した形状模型

# 影山モデル

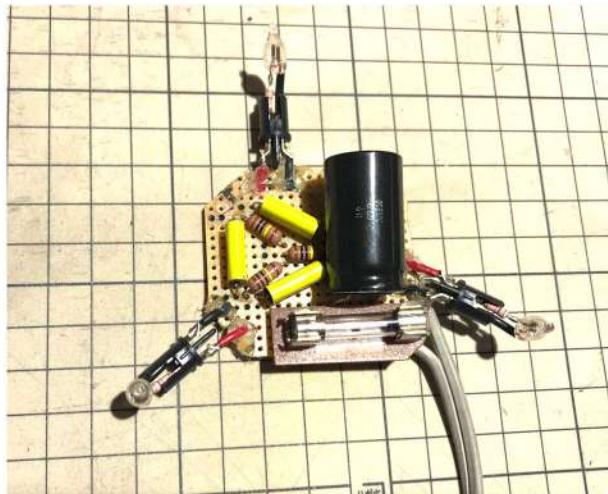
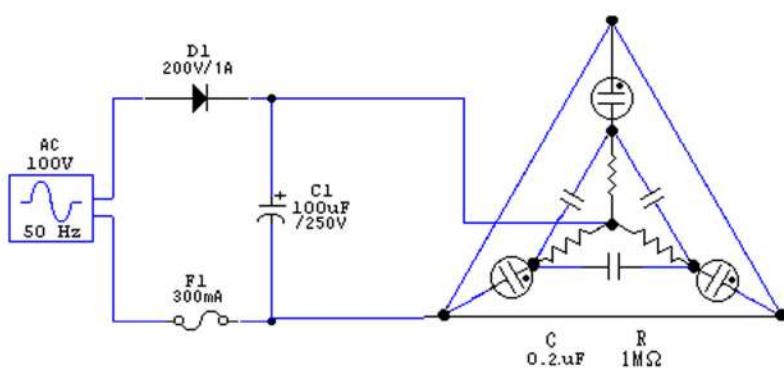
## 宇宙人の物理学に追いついた量子力学

最近の量子力学の進化には目を見張る物があり、「超相対性理論」から50年経ってやっと見えて来たような気がします。それで、清家理論を現代の量子力学と照らし合わせもう一度見直すことにしました。

清家新一理論に回帰する手始めとして「影山モデル」を製作してみました。

球形コンデンサーにより回転電場を作り「核電気共鳴」を起こさせ粒子の「極性スピン」を反転させ「マイナスのエネルギー状態」にして逆重力を作り出す。その電場の回転を分かりやすく示した、3つのネオン球が回転点滅する教育的回路である。

（回路解説ネオン級2個の点滅回路にもう1個加え、3角形に配置している。部品のバラツキにより左右どちらかにまわるとのこと。コンデンサー0, 2 uFにしたが早すぎて回転がわからなかった。もっと大きい方が良いようだ。）



ナチス空飛ぶ円盤 ハウニブ型